

令和7年度 青梅市立第三小学校 学校評価シート

<学校経営方針の重点>

1. 児童の「生きる力」を育てる 2. 開かれ、信頼される学校づくり 3. 家庭・地域の教育力の活用

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
人権尊重を基盤とした、豊かな人間性と社会性を育てる	豊かな人間性と社会性を育てる	「あいさつの励行」と「いじめ防止」	「全力あいさつ」を合言葉に、全校教職員の共通実践により全般的なあいさつ指導を行い、進んであいさつができる子に育てる。	A	児童A評価は昨年度比+2%で50%、AB評価92%。教員AB評価97%だった。児童も職員も挨拶場が増えているのは実感できている。保護者AB評価は72%と+4%であった。	今年度も職員が率先してあいさつを意識してきたことで、あいさつが浸透しつつある。また、この高い数値を学校全体で継続していきよう引き続き取組を継続していく。	A A:7名 B:2名 C:0名 D:0名	祖税教室で学校を訪問すると元氣なあいさつが返ってきています。あいさつが出来ていることは感じています。児童教職員も含めあいさつ運動は効果が出ていると思います。児童・教員の実感として「できています」考えている点が評価できる。	あいさつが出来る児童が今年度も増えている。高学年が積極的挨拶しようとする姿が他学年へも良い影響を出していると感じている。教職員自身も意識をもって取り組んでいるのも成果へ繋がっている。
			優しい言葉遣い、校内美化の徹底(かかとの揃った靴箱)、時間を守るなど、ていねいな立ち振る舞いを心がける。	C	児童AB評価は昨年と同じく92%、保護者AB評価が昨年度比-2%減の55%、言葉遣いや整理整頓には課題を感じていることが分かった。教員AB評価96%であり、今年度は課題を感じている職員がいることが分かった。	授業始の時間を学校全体で意識をもって取り組む必要がある。言葉遣いは学校での指導に加え、日頃の家庭での意識啓発を呼びかける。また、職員のAB評価が100%になるようにする。	B A:1名 B:7名 C:1名 D:0名	保護者の評価が低い理由は推察できる。児童・教員の評価にまだ向上の余地がある。家庭の評価を上げるには日常的に習慣化される様工夫を考えた。児童・教員のAB評価が高いことを評価します。丁寧な立ち振る舞いは家庭での指導も大切。	今後も引き続き言語面や環境面は年間を通して今後も指導等を徹底していく。また、保護者会や学校だけでなく、面談等を活用し、家庭との連携を強化し、家庭と学校、地域と連携しながら周知徹底を図っていく。
			「いじめを絶対に許さない」毅然とした態度で指導するとともに、年4回はいじめに関するアンケートの実施や、「学校いじめ対策委員会」の開催等により、いじめの未然防止、早期発見、即時対応に努める。	B	児童A評価は75%から79%に向上。保護者評価はAB評価95%、5%が否定的回答であった。教職員AB評価100%。これはいじめはありものと考え、組織的に未然防止・早期発見・早期対応の共通意識が結果となったと考える。	安全安心の学校づくりは学習の基礎基本を支えるものである。教職員の意識が高くなっている今こそ、不安に考える児童保護者がいることを学校として受け止め、組織で取り組む必要性、外部機関との連携も密に行い対応していく。	B A:2名 B:6名 C:1名 D:0名	いじめ発生時の即時対応の取り組みは評価できます。外部機関との連携を進めてください。「防くいじめ」を未然にどう防ぐかを今後も対応していただきたい。児童側の目録で見直しを。希望の持てる学校生活の実現が最大の予防策になると思います。	教職員全体でいじめの定義をしっかりと把握し、「いじめは絶対に許さない。いじめはいつとも起こること。」を意識し、早期発見と早期対応に努める。また、組織として情報を共有し、学校全体で子供たちを見守っていく。
学ぶ意欲を高め、体力向上と健康増進の推進	学習の基礎・基本の徹底と体力向上と健康増進の推進	基礎学力の定着と体力の向上	電子黒板やタブレット端末等のICT機器を活用した授業を推進する。また、習熟度別算数少人数指導の推進や、放課後算数教室を開催し、基礎的な学力の定着を図る。	A	児童のAB評価は92%。教員評価はAB評価が100%。保護者88%。タブレット等の活用は日常になってきていること、基礎的な学力の定着等に関する改善は、今回の結果からも行う必要があると考える。	ICT機器を活用した実践が多く行われ、日常化し活用方法や場面の精選をする。また、少人数指導は基礎基本の定着と自己肯定感を育てることを目指し共に、放課後算数教室の活用や推進等を学校と保護者と連携して進めていく。	A A:9名 B:0名 C:0名 D:0名	タブレット等を日常的に使用されている。児童の基礎知識等の向上がうかがえる。児童の高評価、教員のAB評価100%は評価できます。先生たちの努力の賜物。タブレットの使い方もとても抑なっていると感じます。ICTは保護者の理解がとても重要になっていくと思う。	授業の中でツールとして定着してきている。必要な場面で必要な取り扱いは自然とできるようにしている。授業の内容や、個別最適な学びのためのツールとして、活用場面を大切にすると共に、教職員のスキルの向上を行っている。
			「分かる授業・考える授業」をめざし、教員が互いに授業を見合い見せ合い、切磋琢磨することで授業改善を進める。成長する児童の姿で保護者からの信頼を得る。	B	児童のAB評価は96%。保護者のAB評価は89%。教員AB評価は100%であった。保護者の評価が-4%という点は学校として課題であり、全職員で、指導力を更に上げていく。	児童にとって授業はわかりやすいものと捉えられている。しかし、保護者へ繋がっていない現状を踏まえ、日々の授業において児童の成長を感じられる指導を全校で継続して行っていく。	B A:4名 B:5名 C:0名 D:0名	児童のAB評価96%は、分かる授業が進んでいると思われま。分かる授業は以外に難しい課題だと思います。保護者への周知が課題だと思われま。習熟度算数等素晴らしい。授業の進め方も工夫があると思う。家庭への展開をよりできるようにお願いします。	目指すところは引き続き100%である。児童の分かるは高い数値ではあるが、定着まで至っていない。学んだことを定着できるように家庭と連携を行いながら、進んで学習へ取り組める児童の育成を目指していく。
			休み時間の外遊びを推奨し、日常的に体を動かす習慣を身につけさせる。また、体育授業の充実を図り、進んで運動する児童を育てる。	A	教員のAB評価は97%。児童のAB評価は77%。保護者のAB評価は84%であった。教員が率先して外遊びをし、児童とのコミュニケーションも取れている。また、保護者も評価より放課後も外遊びをしていることが結果からも分かった。	来年度も縄跳びチャレンジ、マラソンチャレンジ、イベント委員会の全校遊び等の取り組みや、児童発信等の取り組みを取り入れ、体を動かす良さを周知していく。	A A:8名 B:1名 C:0名 D:0名	教員が率先して児童とのコミュニケーションを取っているとの事ですので、非常に良い事と思われま。児童保護者の評価が向上している点を評価したい。学校全体で取り組まされて進んでいると感じます。D評価の児童が一定数いる。C評価も多く分析が必要かも。	全校での取り組みに対しては、目標単位で目標を決め、目録達成に向けての取り組みができていた。次年度も学校での取り組みの意味や価値をもとめ、体を動かす良さを身に付け、生涯運動につなげていく。
地域や社会に開かれ、信頼される学校	家庭・地域の連携と情報発信	安全・安心な環境づくり	学校公開・授業参観の開催、年2回の学校評価の実施、毎月1回の学校便りやHPの更新により、学校情報をきめ細かく発信し、保護者や地域との連携を深める。	B	児童のA評価は56%から64%と大きく増加につながった。教職員のA評価は54%から62%。保護者のA評価51%から45%と減少している。保護者の結果から、学校からの情報発信に課題が見えた。	学校と保護者が差が見られている。子供は見えてもらえ、評価してもらえ、嬉しいうことなので、たくさんの方へ参加を促すために学校公開や行事への参加を学校だよりやメール等を活用し発信していく。	B A:2名 B:6名 C:1名 D:0名	学校と家庭との連携をもっと密にする事が課題かと思われま。引き続き保護者への働きかけ(発信)に努力してほしい。保護者への情報提供の取組をすすめていただきたい。情報公開や保護者、地域との向上しようと思うが保護者には伝わっていないのか?分析が必要。	今年度は、昨年度と逆転現象が起きている。児童にとっては活躍する場面を生かすことができた。その反面保護者への情報発信等が不十分だったことが分かった。今後も定期的な公開授業や学校だより等で情報を発信し、丁寧に周知していくようにする。
			セーフティ教室や交通安全教室・自転車講習を開催するとともに、PTA等による登校時の見守りや、校長のパトロールの実施等により、登下校時の交通事故や校外での犯罪被害の防止を図る。	B	児童、教員の評価はともA評価が増加している。日常の安全指導、校長による朝のパトロールやPTAによる旗振りやあいさつ運動等の活動の効果もある。しかし、保護者の評価が6%減少と課題の残り結果となった。	引き続き校長のパトロールやPTA本部の地域見守り(旗振り当番)など地域との連携で安全を確保していく。また、安全に関する取組等を学校だよりやメール配信等で周知し、活動を可視化していく。	B A:3名 B:6名 C:0名 D:0名	校長先生の朝のパトロール実施は非常に良い事だと思われま。朝早くから校長先生のパトロール姿をよく見ます。ありがたいことです。冬の日が短い間は、パトロールなど交通事故の不安がある中で、活動内容の検討をお願いします。	次年度も安全に関することなので、100%を目指していく。パトロール等はPTAや地域人材等を活用できるか検討をする機会を設け、保護者や地域との連携を大切に、たくさんの方目で安全を見守ることができるようしていく。
			子供家庭支援センターや立川児相等の外部機関との連携や校内委員会、特別支援教育コーディネーター、教育支援員、スクールカウンセラーの活用を図り、全ての児童が安心して充実した学習活動ができるようにする。	B	児童アンケート項目は「相談できる大人がいるか」を問うている。今年度は昨年度と同じ結果AB評価は92%と高い結果だった。教員のAB評価は97%であった。相談できる大人がいないとしている児童が25名(4%弱)いることは気にかかるところである。	昨年度同様8%のマイナス評価児童を減らしていく必要がある。職員全体で高い感度で組織的に対応し、スクールカウンセラー等や外部機関と連携した対応を保護者と連携しながら一緒に進めていく。	B A:0名 B:9名 C:0名 D:0名	相談には色々なケースがあることを理解した。難しいが学校に出来ることを更に進めて欲しい。外部機関が存在すること、利用の仕方をもっと伝える必要がある。相談できる大人が居ないの4%は気になります。児童・教員のAB評価は高評価と判断します。民間の外部団体との連携も有効ではないかと。	まずは、児童が安心して過ごせる環境づくりを組織で行っていく。児童が安心して相談できる大人が窓口を増やせるようにすると共に、外部機関との連携と、それぞれの機関の周知を丁寧に保護者へも行っていく。